

は等しい。腹部第5節は前節中央長の1.9倍。前脚附節は脛節より短く、第1節は残りの節の合計より明らかに短い (Fig. 3a)。中・後脚附節は著しく長く、それぞれの脛節より遙かに長く、第1節は2節以降の合計よりはわずかに短い (Fig. 3b & c)。

雄交尾器：1.93 mm；幅：0.3 mm。細長く、幅の約6倍。中央片は、先端手前でいったん針のように狭くなるが、先端では再び広がる。側片は先端手前に二次側片を伴う。一次側片の先端部は長四角形で、幅の約3.3倍、外縁突起は認められるが、とても短い (Figs. 6 & 7)。

雌。日本では未知。Otto (2017) によるラオス産の再記載および、図示された雌個体を見る限り、外部形態の雌雄差はほとんどないようである。

分布：日本 (福島県)、ラオス。

備考。前段でも触れたが、畑山 (2017) は、沖縄産 [沖縄島?] の雄と思われる個体に対し、「*Melanoscythron ohmomoi* s. sp.?

かになっていることは、本州 (福島県) とインドシナ半島のラオスに分布し、その中間に位置する沖縄 [沖縄島?] には、近縁の未知種と思われるものが生息しているということだけである。今後、各地から新たな情報がもたらされることを期待したい。

引用文献

- Flautiaux, E., 1926. Catalogue raisonné des Melasidae des îles Philippines. Annales de la Société Entomologique de France, 95 (1926): 29–90.
- Flautiaux, E., 1931. Contributions à faune de l'Indochine française. Bulletin de la Société Entomologique de France, 36: 73–75.
- Flautiaux, E., 1947. Révision des Eucnemides (Coléoptères) de l'Indochine française. Notes d'Entomologie chinoise, Musée Heude, 11: 1–68.
- 畑山武一郎, 2018. 日本産コメツキダマシ科概説 1. 日本産コメツキダマシ科全リストおよびチャイロコメツキダマシ族までの検索表. KORASANA, (88): 221–228, pls. 1–2.
- Muona, J., 1993. Review of the phylogeny, classification and biology of the family Eucnemidae (Coleoptera). Entomologica Scandinavica, supplement, 44: 1–133.
- Muona, J., 1988. A review of the genus *Melanoscythron* Flautiaux (Coleoptera, Eucnemidae), with descriptions of new species. Elytra, Tokyo, 18: 17–22.
- Muona, J., 2007. Family Eucnemidae Eschscholtz, 1829. In: Löbl, L. & A. Smetana (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 4: 81–87. Apollo Books, Stenstrup.
- Otto, R. L., 2016. The false click beetles (Coleoptera: Eucnemidae) of Laos. Entomologica Basiliensia et Collectionis Frey, 35: 181–427.

(2020年3月30日受領, 2020年5月20日受理)

【短報】東京都初記録を含むアオゴミムシ類3種の戦前の採集例

筆者らは国立科学博物館 (つくば市) および北海道大学総合博物館 (札幌市) において標本調査を行った結果、東京都から採集された以下のアオゴミムシ類の標本を確認しているので記録する。

1. ヒトツメアオゴミムシ *Callistoides deliciolus* (Bates, 1873)

1♂, Fuchū, Tokyo, 12. VI. 1939 (皇紀による記載で「2599」とラベルにはあった), A. Habu; 1♂, Edogawa, Tokyo, 25. V. 1938, Habu, 以上, 北海道大学総合博物館所蔵。

これまで東京都からは、土生和申コレクション目録で示された東京稲城から1939年に採集された1

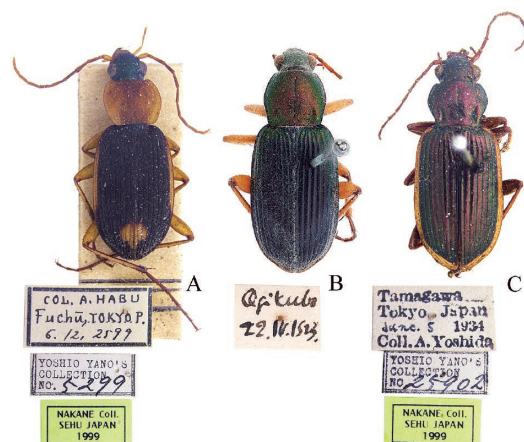


図1. 東京都産の幻のアオゴミムシ類。A, ヒトツメアオゴミムシ (標本の下にそのラベルを示した。以下、同様); B, アオヘリアオゴミムシ; C, ツヤキベリアオゴミムシ。

例(吉武ら, 2011)しか知られていなかった。今回確認されたのは、府中および江戸川からの土生自身による採集例で、いずれも中根猛彦コレクション中の標本である。これらの標本は、中根コレクションに入る前には矢野由雄氏のコレクションに収まっていたため、矢野コレクションのラベルが付されていた。

本種は、2012年に公表され(環境省自然環境局野生生物課, 2012)、2019年までに数回の改訂を経た第4次環境省レッドリスト(環境省自然環境局野生生物課, 2019。以下、「環境省RL」と省略)では準絶滅危惧、東京都本土部のレッドデータブック(東京都環境局自然環境課, 2013)でも準絶滅危惧のランクで掲載されている。

戦前の確認例しかないため、東京都からの再発見はかなり困難と予想される。ただし、丘陵地や低山地、島嶼部は調査不足のため可能性が皆無ではないと思われる。なお、本種のタイプ産地は長崎である。

2. アオヘリアオゴミムシ *Chlaenius (Amblygenius) praefectus* Bates, 1873

1♂, 1性別未確認, Ogikubo, 22. IV. 1923, 国立科学博物館所蔵。

記録が見当たらなかったため東京都からは初記録となる。ラベルに採集者氏名などの詳細情報はない。“Ogikubo”は現在の杉並区荻窪のことと考えられる。性別未確認の個体には、ラベルをつけた人物が未記載種と考えたためか肉筆で新学名が記述され、和名も「oh-tsuya-kiberi」と記されていた。

本種は環境省RLに絶滅危惧IA類のランクで掲載されており、各地で衰退が著しいと考えられている。比較的大型のアオゴミムシ類で、灯火にも飛来するにもかかわらず、100年近く東京都からは採集例がなく、東京都からはすでに絶滅したと推測される。本種もタイプ産地は長崎である。

3. ツヤキベリアオゴミムシ *Chlaenius (Chlaenites) spoliatus motschulskyi* Andrewes, 1928

2♂♂, Tamagawa, Tokyo, 5. VI. 1934, A. Yoshida; 1♀, ditto, 22. VIII. 1934, A. Yoshida, 以上、北海道大学総合博物館所蔵。

本種も東京都からは初記録になると思われる。多摩川産である。採集者は吉田晶氏と考えられ、また、これらの標本にも矢野由雄氏のコレクションラベル

が付されていた。当時、二人に親交があったことは上野(2004)もふれている。

本種は環境省RLに絶滅危惧II類のランクで掲載されているが、残念ながら東京都からはすでに絶滅した可能性がきわめて高い。

日本初記録はBates(1873)による大阪産2個体にもとづく報告で、*Chlaenius spoliatus* var. *nicanus* Motschulsky, 1864の名のもとに記録され、その後、Andrewes(1928)は日本産を含む個体群に置換名を与えた。

なお、本研究の一部は、国立科学博物館のコレクションビルディングフェローシップ制度の助成を受けている。受け入れ先の神保宇嗣博士と野村周平博士に厚くお礼申し上げる。

末筆ながら、標本調査に協力してくださった北海道大学総合博物館の大原昌宏博士に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- Andrewes, H. E., 1928. On the types of oriental Carabidae described by V. de Motschulsky. The Transactions of the Entomological Society of London, 76: 1-24.
- Bates, H. W., 1873. On the geoadephagous Coleoptera of Japan. The Transactions of the Entomological Society of London, 1873: 219-322.
- 環境省自然環境局野生生物課, 2012. 報道発表資料, 平成24年8月28日, 第4次レッドリストの公表について(お知らせ). (<https://www.env.go.jp/press/15619.html>) 2020年2月26日閲覧。
- 環境省自然環境局野生生物課, 2019. 報道発表資料, 平成31年1月24日, 第4次レッドリストの公表について(お知らせ). (<https://www.env.go.jp/press/106383.html>) 2020年3月10日閲覧。
- 東京都環境局自然環境課, 2013. レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～. 655 pp.
- 上野俊一, 2004. 吉田晶さんのご逝去を悼む。甲虫ニュース, (146): 6-7.
- 吉武 啓・栗原 隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 農業環境技術研究所所蔵の土生廻申コレクション(昆虫綱: コウチュウ目: オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所報告, (28): 1-327.

(亀澤 洋 (株) 環境指標生物)
(佐藤諒一 北海道大学農学部昆虫体系学教室)
(菅谷和希 (株) 環境指標生物)

【短報】千葉県において採集されたマルヒラタガムシの記録

マルヒラタガムシ *Enochrus subsignatus* (Harold, 1877) は国内では本州・四国・九州・南西諸島に分布し、植物が豊富な止水域に生息する小型の水